

## スポーツは力（身体感覚）

室伏 広治

### その1

#### 心の所在はどこ？

心が身体にあったところにスポーツができた。ミュロンが作製した古代ギリシャの彫刻である円盤投げの像（ディスコボラス）は、今まさに選手が円盤をスローイングしようとするその瞬間をとらえたものである。ディスコボラスを観ると肉体の美しさもさることながら、それ以上に意味のあるメッセージが存在する。それは顔の表情から察することができる。これから円盤をスローイングしようとする瞬間の表情にしては、あまりにも穏やかである。そこには遠くへ投げることや、成績、名誉などを到底考えている様子が顔に出ていないことから、集中するその心が頭がないように思える。古代ギリシャ人たちはその集中状態を知っていた。競技をする中で結果や順位だけを追い求めるような姿を、むき出しにすることは彼らの理想ではなかった。ちなみに、これを成し遂げることは大変難しいことだけにギリシャ語で、アスリートという言葉は、“できないことを成し遂げる人”ということ了指わけだが、古代の人々はオリンピックで、人間の理想の姿を見ようとした。オリンピックはそんな祭典であったのではないだろうか。

さて、日本は禅の国といわれるように心というものを重視してきた民族である。日本人の心の所在は、腹にあると信じ、心を静かに統一して頭にあるものを腹に静めていく感覚を持った。世界の様々な国の文化でも心が身体のどこかに収まる場所というものがあったように思われるが、どの国の文化も心が頭にあることを理想としたものはないのではないかとと思われる。

現代の人に注目すると、現代の人は自己主張をすることはできても、他を思いやる気持ちや相手の苦労や痛みを感じられる心がかけていることはみんなが気づき始めている。スポーツの世界でも対戦する相手に敬意を表する事が怠る選手を見ることがある。私は、大きな世界大会の舞台に立ち対戦相手に思うことは、“この伝統あるスポーツで日々大変な努力をし、勝ち上がってきた国を代表する選手たちに敬意を表す”ということである。そして自分のありったけの力を、すべてぶつけていく姿勢を持つと心がけている。そこに自分自身の成長があると信じるからである。スポーツではどれだけ素晴らしい技術があっても、大切な心の部分がかけている魅力を感じられないのではないかとと思う。高性能のミサイルを作り出す技術があっても、その感情によってスイッチをいつ押すのかわからないようなイメージさえする現代人は、文明の発達と共に心を置き去りにしてきているのではないかとと思う。そんな中、今後より一層スポーツが社会に担う役割は大きくなっていくのではないかとと思われる。スポーツを通して心と身体に着目する必要がでてきた時代が来たのではないかと。心の所在はいったいどこに行ってしまったのだろうか。